

新刊ニュース

*宮崎晴代著

「中世のソルミゼーションにおける《*Ut queant laxis*》と《*Trinum et unum*》
—ソルミゼーション・シラブルの成立過程について— (武蔵野音楽大学研究紀要第50号)

本科生の皆さんは、授業のなかでソルミゼーションを勉強していますのでいろいろな文献表を配布されていることと思いますが、それに新たに加えるものとして上記の紀要論文をお勧めします。ガイド・ダ・レッツィオのソルミゼーション・シラブルは有名ですが、同じ頃、別のシラブルも併用されていたという事実に関する論考です。しばらく新刊コーナーに置いておきますが、その後は閲覧希望される方は杉本ゆりまで。

*中世思想原典集成、9：サン＝ヴィクトル学派 (平凡社)

12世紀の修道院神学のなかでもとりわけ、神学から花咲いた豊かな文化サン＝ヴィクトル学派のセクエンツィア集がここにすべて所収されています。Pierre Aubryによる *Les proses d' Adam de Saint-Victoir – Texte et Musique (Melanges de Musicologie critique)* からの解説楽譜は私のデスクの書架にありますので、こちらとセットで楽譜を見たい人は申し出てください。このたび購入したのはイエズス会士平林冬樹師による素晴らしい日本語訳です。セクエンツィアというのは聖書からの引用ではなくその時代時代の人間が創作した言葉によってその日のミサの意向を言葉によって敷衍していくもので、ミサのなかで福音朗読の前に歌われます。現在の典礼では聖霊降臨と復活の日中のミサでしか歌われておりませんが、しかしかつてはこのように比類ないセクエンツィア、すなわち神学と文学と美が結びついた文化があったのだということを学んでいただきたく、また典礼の歌から神学を学んでいた中世にも思いを馳せていただきたく思います。

*Graduale Novum II: De feriis et sanctis

ようやくグラドゥアーレ・ノーヴムの2巻を買いました。1巻は主日と祝日、この2巻は週日と聖人固有です。ですから例えば待降節から教会暦は始まりますが待降節第一主日 *Tempus Adventus Dominica prima Adventus* は1巻ですが、翌日の月曜日からは2巻のほうを見なければなりません。私には理由はわかりませんが、Appendix(付録)にマリアの4大アンティフォナ(しかも *simplex*) と *Sub tuum praesidium* が載せられていることは、旧版にない特徴です。*Sub tuum* は最古のアンティフォナで、旋律が途中で変更されている楽譜もありますが、これは最古の原型の形と考えられるヴァージョンです。

Ordinarium Missae ミサ通常文の前に灌水式の聖歌 “*Asperges me*” と “*Vidi aquam*” が載っていますが、*Novum* のほうにはネウマがついています。

(杉本ゆり 記)